

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 1月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	4079800209		
法人名	有限会社 のぞみの里		
事業所名	グループホーム ゆうげん荘		
所在地 (電話番号)	〒822-1212 福岡県田川郡福智町弁城3719番地3 (電話)0947 22 6555		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価確定日	平成22年2月3日

【情報提供票より】(平成21年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	専任7人 兼務1人 非常勤3人 常勤換算6,43人	

(2) 建物概要

建物形態	単独型	築 5年
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 4,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,167 円		

(4) 利用者の概要(平成21年12月25日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低	72 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人和光会 一本松病院 ・ ながすえ歯科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季の移り変わりを感じる自然環境に恵まれた山里の中にグループホームゆうげん荘がある。土筆や筍が採れる広い敷地内に建つホームは、全館床暖房で足元からぽかぽかと温かく、床、壁、吹き抜けの天井は木目調で統一され、掃除の行き届いた明るいホームの中で、利用者とは職員は家族の一員として穏やかに暮らしている。散歩、買い物時に近所の方に挨拶を心がける等、地域に向けての地道な働きかけが少しずつ実り、近所からの野菜の差し入れ、行事、祭りへのお誘い等、交流は深まっている。また、地域の保育園児の来訪は利用者の大きな喜びとなっている。非常勤の看護師、提携医、かかりつけ医との連携による健康管理が、行われている。家族に対しては、行事への参加の呼びかけや、家族会を立ち上げ、要望を聴きとらうとする姿勢も見られ、家族からの信頼も厚い。オーナー、施設長の介護に対する思いを職員が理解し、実践に向けて取り組み、今後益々楽しみなグループホームゆうげん荘である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回は、「思いや意向の把握」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「災害対策」「栄養摂取や水分確保の支援」の4つが要改善点であったが、職員、施設長、オーナーの努力によって3つは改善されている。今後は、「評価の意義の理解と活用」「災害対策」の改善に取り組むことが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、この一年間のホームの状況を振り返りながら、主に施設長が作成している。今後は自己評価票を職員で分担し、職員全員で関わることで、評価の意義を理解し、介護サービスの質の向上に繋げることが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。メンバーは、利用者家族代表、町社会福祉協議会会長、隣組、消防分団長、町役場介護課職員、ホームオーナー、施設長であり、会議では、ホームの現状報告、行事報告、地域からの情報提供があり、質疑応答では活発な意見が出され、出された意見、要望はホーム運営に反映し、介護サービスの質の向上に繋げていくよう努力している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関にご意見箱を置き、相談・苦情窓口の案内も行っているが、なかなか苦情は出ない。オーナー、施設長、職員は、家族が相談・苦情を言いやすいような雰囲気作りを心がけコミュニケーションに努めている。また、家族会を作り、家族だけで心配事や悩み事を語る機会を作っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>道路沿いのホームの入り口には、ホームの理念を書いた看板を掲げ、地域にグループホームを理解してもらうよう努めると共に、地域の軽体操推進事業である「たんぼぼ軽体操」を取り入れたり、地域の神幸祭見物に出かけたりしている。日頃から、散歩時に近所の方への挨拶を心がけ、少しずつ交流も深まり、野菜、果物の差し入れなどもある。また、近くの保育園児の来訪も利用者の大きな楽しみとなっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔・愛情・尊重」を理念に掲げ、職員が常に学びサービスの質の向上を目指し、利用者が人として尊重され地域の中でその人らしく笑顔で生活できるホームを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内の目に付く所に掲示すると共に、毎日の朝礼時に職員全員で唱和し理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、買い物時に近所の方への挨拶を心がけ、少しずつ交流も深まり、時折野菜や果物の差し入れもある。地域の神幸祭に参加したり、近くの保育園児の来訪は、利用者の楽しみの一つになっている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	オーナー、施設長は、自己評価・外部評価の意義を理解している。今回の自己評価は、この一年間のホームの状況を振り返りながら主に施設長が作成した。	○	施設長が職員に自己評価・外部評価の意義を説明し、評価結果に基づいて職員一人ひとりが目標を持って日々のケアに取り組むことが望まれる。また、自己評価作成を、職員が分担して取り組み、全員で関わることで、評価の意義の理解に繋げることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。メンバーは、利用者家族、町社会福祉協議会会長、隣組、消防分団長、町役場職員、ホームオーナー、施設長である。会議では活発な意見が出され、出された意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に町役場の介護課職員の参加があり、活発な意見交換、情報の共有化に努めている。運営上の疑問、制度、法令上の疑問があった時にはその都度相談するなど、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、この制度に該当する利用者はいないが、権利擁護に関する制度についての資料・パンフレットを準備している。		権利擁護に関する制度が必要になった時、いつでも利用者や家族に説明、支援が出来る体制作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりは「ゆうげん荘だより」でお知らせし、金銭管理については、利用者個別の出納帳に領収書を付けて送付し報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口、また、ご意見箱を設置している。出来るだけ家族が相談し易い雰囲気作りに努め、また、家族会を作り家族だけで、悩み、心配事などを話し合う機会を設けている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ロッカー、休憩室、休憩時間を設け職員が働きやすい環境を整え離職を最小限に抑える努力をしている。やむ終えず代わる場合は引継ぎ期間を設けるなど、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の募集、採用は、性別、年齢などを理由に制限することはない。採用は、人間性、福祉に対する思い、向上心を重視して行っている。職員は、毎日昼食後にミーティングを行い、コミュニケーションを図り、働きやすい職場になっている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	オーナー、管理者は、月に1回定期的に開催される全体会議、又は申し送り時に、常に利用者に対する人権の尊重について話し、職員の意識付けをしている。		外部の人権研修会等に参加し、研修内容を持ち帰って内部研修を行い、全職員で共有することが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オーナー、施設長は職員の質の向上が最重要と考えており、研修を受ける機会の確保や資格取得に対して、勤務体制の見直しやテキスト代を補助する等の応援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内12のグループホームによる協議会の会合を定期的開催し、情報交換、意見交換を行い、交流を深め、地域の介護サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験入居を通して少しずつ馴染みながら、入居希望者、家族が納得、安心して入居していただけるように、様々な工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付け、調理方法など、利用者に教えられることも多く、介護する側、される側という意識を持たず、共に一緒に暮らして行くという関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛け、見守りの中で、利用者のふとしたつぶやきに耳を傾け、思いや意向の把握に努めている。意向の表出の困難な利用者に対しては、家族からの聞き取りや過去の履歴などで把握するよう努めている。		
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや意見を聴いたうえで、それぞれの課題を見つけ、職員が意見を出し合い介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、利用者の状況に変化が起きた場合についてはその都度見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	病院、理・美容院への送迎、馴染みの店への買い物 同行、看護師配置による安心の医療体制、軽体操、エ ステなど地域のボランティアの訪問による支援など、可 能な限り利用者、家族の要望に応じた支援を心がけて いる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切にしながら、看護師が中心 となりかかりつけ医の受診支援を行っている。また、事 業所の提携医との連携を通じて、利用者が安心して適 切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期に向けた指針を作成し、事業所の出 来ること、出来ないことを明確にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	入室前のノック、声かけを徹底し、一人ひとりの誇りや プライバシーを損ねることのないよう配慮している。個 人情報の取り扱いについては、入居時に誓約書を交 わし、細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら畑作業、書道、 散歩、買物など希望に添ってその日一日を、大切に過 ごせるよう支援している。		
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の下準備、配膳、片付けなど、利用者と共に 行い、利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事をし、 会話や笑い声のある楽しい食事風景である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて 入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒否される利 用者に対しては、ゆっくり時間をかけて会話しながら、 入浴が楽しいものとなるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来る力に応じて、料理の下ごしらえ、草刈、買い物時の荷物持ちなど役割を分担している。また、テラスでのバーベキューや、裏山から切り出した竹を使ってのそうめん流し、施設長の愛犬の世話など、楽しみごと気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望に添って、犬の散歩、買物、ドライブ、畑仕事など外出の支援をしている。季節毎のお花見や初詣などの外出も利用者の大きな楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアを開設当時から続けている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、夜間を想定した避難訓練を実施している。また、この度オーナーが「甲種防火管理者」の資格を取得したこと、運営推進会議のメンバーに消防分団長の参加で心強い。	○	地域住民の協力を得て、避難訓練に参加してもらい、災害時に備えて飲料水、非常食、毛布の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量を記録することにより、職員は利用者の状態を把握し細やかに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇、ホーム内に飾られた生花が、訪れる人を和ませてくれる。手作りの大きな日めくり、壁の飾り、ランチョンマットなど季節感を取り入れている。全館床暖房で足元からぽかぽかと温かく、居間は吹き抜けで木目調の天井も高く開放的で利用者がのびのびと居心地良く過ごせるよう工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれ馴染みのある家具や小物を持ち込み、家族の写真、書道の作品などを壁に飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		